

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目 次

I	学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
①	学生確保の見通し	1
ア	定員充足の見込み	1
(1)	入学定員及び収容定員	1
(2)	入学定員の設定の考え方	1
(3)	実績及びアンケート調査等を踏まえた 入学者数の見込み(まとめ)	1
イ	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
(1)	岐阜連獣における入学者の実績	2
(2)	アンケート調査の実施	3
(2-1)	在学生へのアンケート調査の結果	4
(2-2)	姉妹校へのアンケート調査の結果(東京農工大学)	5
(2-3)	社会人に対するアンケート調査の結果	5
(2-4)	企業等へのアンケート調査の結果	6
(3)	アンケート調査以外入学者の見込み	6
ウ	学生納付金設定の考え方	7
②	学生確保に向けた具体的な取組状況	7
(1)	学生の確保	7
II	人材需要の動向等社会の要請	8
①	人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(概要)	8
②	上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	8
ア	人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠	
(1)	人材需要の動向と社会の要請(まとめ)	8
(2)	人材の養成に関する社会的な要請	9
(3-1)	岐阜連獣における修了者の実績	10
(3-2)	岐阜連獣における修了者の主な就職先(職域別)	10
(4-1)	企業等へのアンケート調査の結果	11
(4-2)	留学生の需要の見込み(東京農工大学)	11
(5)	新たな博士人材需要の拡大	12
(6)	JREC-IN Portal のデータによるエビデンス	12
III	資料編	13

## I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ①学生確保の見通し

#### ア) 定員充足の見込み

##### (1) 入学定員及び収容定員

共同獣医学専攻における、入学定員は、次の表のとおり、東京農工大学 10 人、岩手大学 5 人の合計 15 人、収容定員は全体で 60 人と設定した (表 1)。

表 1：入学定員及び収容定員 (単位：人)

大 学 名	定 員	
	入学定員	収容定員
東京農工大学	10	40
岩手大学	5	20
計	15	60

##### (2) 入学定員の設定の考え方

共同獣医学専攻の入学定員は、これまでの岐阜大学院連合獣医学研究科 (以下「岐阜連獣」という。)における東京農工大学及び岩手大学を配置校とする入学の実績及びアンケート調査の結果を分析するとともに、社会のニーズ・動向を踏まえ、次のように設定した。(詳細は、(3) アンケート調査等を踏まえた見込み (まとめ) に記載)

東京農工大学は、日本人学生の入学を 2 人、留学生の入学を 4 人、社会人学生の入学を 4 人と想定し、入学定員を 10 人に設定する。

岩手大学は、日本人学生の入学を 2 人、留学生の入学を 1 人、社会人学生の入学を 2 人と想定し、入学定員を 5 人に設定する。

##### (3) 実績及びアンケート調査等を踏まえた入学者数の見込み (まとめ)

岐阜連獣の入学者のうち、東京農工大学及び岩手大学を配置校とする過去 6 年間の平均入学者数は東京農工大学 10.8 人、岩手大学 4.2 人であった。今回のアンケート調査等の分析で、この数値に加えて新規に入学者を見込めることがわかった。

日本人学生 (社会人を除く母校からの進学者) は、東京農工大学 2.5 人、岩手大学 0.5 人の増加が見込まれる。

また、留学生は、これまでに受け入れ実績がない姉妹校から東京農工大学への新規入学者 3.3 人が見込まれる。

加えて、両大学に対する企業等からの新規社会人入学者については、6.9 人が見込まれる。

以上のことから、本共同獣医学専攻に対するニーズは、岐阜連獣の実績及び新規増加見込みを合計すると、両大学で 28.2 人 (東京農工大学 16.6 人、岩手大学 4.7 人及び両大学への新規社会人入学者 6.9 人) となり、少なくとも東京農工大学 10 人、岩手大学 5 人、合計 15 人の入学定員が必要である。

なお、志願倍率は、1.88 倍となり、両大学いずれも適切な選抜を行い、質を担保しつつ恒常的に入学定員を確保することが可能である。

**表 2：入学者数の見込み**

(単位：人)

区 分		東京農工大学	岩手大学	2 大学計	算出根拠	
岐阜連獣 実 績 (6年間平均)	日本人学生 (社会人除く)	2.5	1.8	4.3	実 績	表 3
	留 学 生	4.3	1.3	5.6		
	社会人学生	4.0	1.0	5.0		
<b>小 計</b>		<b>10.8</b>	<b>4.2</b>	<b>15.0</b>		
新規増加 見込み	日本人学生 (社会人除く)	2.5	0.5	3.0	アンケート	表 7
	留 学 生	3.3	---	3.3		表 8
	社会人学生	+ $\alpha$	+ $\alpha$	6.9		表 10
<b>小 計</b>		<b>5.8+<math>\alpha</math></b>	<b>0.5+<math>\alpha</math></b>	<b>13.2</b>		
岐阜連獣 実績と新規 増加見込み	日本人学生 (社会人除く)	5.0	2.3	7.3	実績 + アンケート	/
	留 学 生	7.6	1.3	8.9		
	社会人学生	4.0+ $\alpha$	1.0+ $\alpha$	11.9		
<b>合 計</b>		<b>16.6+<math>\alpha</math></b>	<b>4.7+<math>\alpha</math></b>	<b>28.2</b>		

※1 岐阜連獣実績の岩手大学の小計欄は、3つの区分の合計では平均入学者は、4.2人となる。

2 新規増加見込みの社会人学生 6.9人は、両大学に対する希望数であるため、各大学は「+ $\alpha$ 」とした。

上記の入学者数の見込み（表 2）のほか、1）送り出し実績のある姉妹校や姉妹校以外の大学からの留学生、2）卒業生並びに東京地区及び東北地区の獣医師における入学希望、3）アンケート調査以外の社会のニーズ（後述のイ）（3）など、更なる入学者が期待される。

## イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### (1) 岐阜連獣における入学者の実績

入学定員の設定に当たり、岐阜連獣における東京農工大学及び岩手大学に配置される入学者数の分析と修了生の進路分析を行った。

平成 23 年度から 28 年度までの 6 年間の岐阜連獣における入学者数は次表のとおりである。東京農工大学では 6 年間の平均で 10.8 人、岩手大学では 4.2 人である。この数値が入学定員の設定のベースとなる値と考えた。入学者数の少ない年度もあるが、他大学院進学のほか教員の定年退職等指導体制の変化が要因と考えられる。

なお、獣医学科の修業年限は 6 年間であることから、実績を分析するに当たって平成 23 年度から 28 年度（6 年間）の動向を踏まえた。

**表3：岐阜連獣における年度別志願者数・入学者数（過去6年間）** (単位：人)

区 分	入学定員	志願者数	入学者数（農工・岩手配置）	
		合計（全体）	東京農工大学	岩手大学
平成23年度	20	41	11	6
平成24年度		31	6	5
平成25年度		32	12	2
平成26年度		34	11	6
平成27年度		40	16	5
平成28年度		25	9	1
<b>平均(6年間)</b>	20	33.8	<b>10.8</b>	<b>4.2</b>

※1 数字は4月入学及び10月入学の合計である。

2 入学状況について

平成24年度までは岐阜連獣では、准教授にも主指導資格の審査は行っていたが、教授に学生の主指導教員を限定していた。一方、東京農工大学では、若手教員の育成を重視し、平成20年度以降テニユアトラック制度の積極的導入を行って、定年等で退職をした教授の席に若手教員（助教）を補充した。結果として主指導となる教員が減ってしまったため、入学者数も一時的に減ってしまった。その後、岐阜連獣では主指導教員の取扱いを改正し、准教授にも主指導教員として、学生を担当できるようにした。

平成27年度には、大幅な定員超過(入学定員20人に対し37人入学)があったことから、基幹校である岐阜大学からの指示を受け、平成28年度については、配置大学が自発的に入学者を抑制するなどの対応を行った。特に、岩手大学については、指導教員の退官及び異動等により、他大学の獣医学専攻への進学者が平成25年度は4人、平成28年度は3人あり、進学者が減少した。

共同獣医学専攻では、留学生・社会人に広く門戸を開けることとしている。岐阜連獣での入学者を日本人学生（社会人除く）、留学生、社会人に区分したものが次表である。年度により数の多寡はあるが、どの年度も日本人学生、留学生、社会人学生が偏ることなく入学していることがわかる。日本人学生（社会人）の多くは自大学からの進学であるが、一部他大学からの進学者もいる。留学生の国籍はバングラディッシュ、タイ、アフガニスタン、エジプト等である。また、社会人は製薬企業、公衆衛生獣医師、臨床獣医師等から入学している。

**表4：岐阜連獣における年度別入学者区分** (単位：人)

区 分	東京農工大学				岩手大学			
	日本人学生 (社会人除く)		留学生	社会人	日本人学生 (社会人除く)		留学生	社会人
	母校 出身	他学 出身			母校 出身	他学 出身		
平成23年度	1	-	4	6	1	-	3	2
平成24年度	3	1	1	1	2	-	1	2
平成25年度	2	2	5	3	0	-	1	1
平成26年度	1	1	6	3	4	1	1	0
平成27年度	1	2	8	5	2	1	1	1
平成28年度	1	-	2	6	0	-	1	0

## (2) アンケート調査の実施

入学定員の設定に当たり、学生の確保の見通しを明らかにするため、平成28年10月から平成29年1月に掛けて、各構成大学（東京農工大学、岩手大学）の獣医学科・共同獣医学科在学生、卒業生、さらに、全国の獣医系大学の地域配置を踏まえ、東京農工大学は、東京地区の獣医師並びに関東地区を中心として獣医学分野出身者を採用している企業・団体・研究機関に、岩手大学は、東北地区の獣医師並びに同地区を中心として獣医学分野出身者を採用している企業・団体・研究機関に、加えて、岐阜連獣に留学生を送り出した実績が未だない姉妹校等を対

象にして、「獣医学分野の大学院設置に関するアンケート」を行い、次の表のとおり回答があった。

**表5：対象別の回答者（機関）数**

区 分	東京農工大学	岩手大学
獣医学科・共同獣医学科在学学生	195 人	116 人
社会人（卒業生・獣医師）	318 人	460 人
地方自治体・研究機関・農業組合・民間企業等	112 機関	87 機関
姉妹校	35 校	----

## （2-1）在学生へのアンケート調査の結果

東京農工大学及び岩手大学の獣医学科・共同獣医学科の在学生全体（1～6 学年）に大学院への進学志向についてアンケートを実施した結果、「大学院へ進学したい」、「将来的に進学したい」、「就職後進学したい」と回答した者は、次のとおりであり、在学生の多くが大学院への進学希望を持っていることがわかった。

**表6：大学院への進学志向**

（単位：人）

区 分	東京農工大学	岩手大学	計
進学したい	12	9	21
将来的に進学したい	17	13	30
就職後進学したい	32	24	56
進学したいが事情により困難	33	18	51
希望しない	101	52	153
合 計	195	116	311

両大学の共同獣医学科では、4 年次の後期に学生を研究室に配属し、専修教育である、獣医学演習（4 年次後期から 5 年次前期）と特別研究（＝卒業論文：5 年次から 6 年次）が開始されることから、「研究への興味や将来の方向性」が固まる時期は、5 年次後期となる。

このため、新規母校進学者を見込むに当たって、単年度ではあるが実態を踏まえた数字と考え、5 年次生のアンケートにおいて「大学院へ進学したい」と回答した者の結果を踏まえた。

回答結果から、岐阜連獣への母校進学者の実績を差し引き、新規母校進学者は、東京農工大学 2.5 人、岩手大学 0.5 人、合計 3.0 人が見込まれる。

**表7：大学院への進学志向（5 年次生）**

（単位：人）

区 分	東京農工大学	岩手大学	計
大学院へ進学したい(A)	4	2	6
岐阜連獣の母校進学者の実績(B)	1.5	1.5	3.0
<b>新規母校進学者数(A)-(B)</b>	<b>2.5</b>	<b>0.5</b>	<b>3.0</b>

【参考：別紙資料1「獣医学分野の大学院（専攻）設置に関するアンケート（学生対象）」】

## （2-2）姉妹校へのアンケート調査の結果（東京農工大学）

本共同獣医学専攻に入学する新たな留学生については、特に、東京農工大学に対して期待されており、岐阜連獣に留学生を送り出した実績の無い姉妹校から、「新たに東京農工大学の組織として獣医学分野の大学院が設置されるなら送り出したい」と希望があり、送り出し実績の無い姉妹校に対して、何人の留学生を送り出す見込みかを調査した。その結果、1年当たり、3.3人を留学させると回答があった。

なお、次の表のほか、送り出し実績のある姉妹校や姉妹校以外の大学からの留学生、また、岩手大学にも留学生が更に入学することが期待される。

**表8：新規留学生送り出し見込数**

区 分	送り出し実績の無い姉妹校			計 (人)
	1人	2人	3人	
1年当たり	1校			1.0
2年当たり			1校	1.5
5年当たり		2校		0.8
	<b>1年当たりの送り出し数</b>			<b>3.3</b>

※ 上記回答があった姉妹校：カセサート大学 [タイ]、キングモンクット工科大学ラカバン校 [タイ] マヒドン大 [タイ] ガジャマダ大学 [インドネシア]。

【参考：別紙資料2「獣医学分野の大学院（専攻）設置に関するアンケート（姉妹校対象）」】

### (2-3) 社会人に対するアンケート調査の結果

本共同獣医学専攻では、社会人について積極的に受け入れることとしており、そのニーズを把握するため、東京農工大学及び岩手大学の卒業生並びに東京地区及び東北地区の獣医師といった社会人を対象にアンケート調査を実施した。

社会人に博士（獣医学）についての考えを調査したところ、「チャンスがあれば取得したい」と回答した者が34.0%であり、社会人の3人に1人が博士（獣医学）の学位の取得を希望していることが示された。

**表9：学位の取得希望**

(単位：人)

区 分	農工大卒業生・ 東京地区獣医師	岩手大卒業生・ 東北地区獣医師	計
博士号を持っている	24	14	38
チャンスがあれば取得したい(A)	115	149	264
特に必要としない	143	252	395
わからない	34	36	70
未回答	2	9	11
合 計(B)	318	460	778
博士号取得の必要性(A)/(B)	36.2%	32.4%	34.0%

本共同獣医学専攻では、社会人を積極的に受け入れることとしており、そのニーズを把握するため、東京農工大学及び岩手大学の卒業生並びに東京地区及び東北地区の獣医師といった社会人を対象にアンケート調査を実施した。社会人に共同獣医学専攻（4年制博士課程）への入学の検討について調査をしたところ、「入学したい」あるいは「将来的に入学したい」と答えたものが東京地区在住では60人、東北地区在住では65人と入学希望者が多く存在した。

なお、「将来的に入学を検討したい」及び「経済的及び時間的な理由により困難」とする者に対しても、学費の減免や奨学金（奨励金）の充実などの経済的支援、さらに、14条特例による時間的配慮を行うことにより更なる社会人入学者の増加が見込まれる。

**表 10：社会人の入学の希望**

(単位：人)

区 分	農工大卒業生・ 東京地区獣医師	岩手大卒業生・ 東北地区獣医師	計
入学したい	18	9	27
将来的に入学を検討したい	42	56	97
入学したいが経済的に困難	20	7	27
入学したいが時間的に困難	88	77	165
入学したいがその他の理由で困難	24	47	71
希望しない	119	256	375
未回答	7	8	15
合 計	318	460	778

【参考：別紙資料3「獣医学分野の大学院（専攻）設置に関するアンケート（社会人の方対象）」】

### (2-4) 企業等へのアンケート調査の結果

新たな分野や既存分野の強化に向け、東京農工大学及び岩手大学が設置する本共同獣医学専攻に、企業等が入学を勧める新規社会人入学者として、何年間で何人程度が見込まれるか調査をしたところ、回答があったのは次の表のとおりであり、岐阜連獣の社会人入学者の実績を差し引いても、1年当たり2大学で6.9人が見込まれる。

**表 11：企業等における従業員の入学推奨人数**

区 分	入学推奨人数		2大学計 (人)
	1人	2人	
1年当たり	1機関		1.0
2年当たり	5機関		2.5
3年当たり	14機関	1機関	5.3
4年当たり	6機関		1.5
5年当たり	8機関		1.6
合 計(A)	34機関	1機関	11.9
岐阜連獣の社会人入学者の実績(B)			5.0
<b>1年当たりの入学者数(A)-(B)</b>			<b>6.9</b>

※ 岐阜連獣の社会人入学者の実績は、東京農工大学4.0人、岩手大学1.0人であった。

【参考：別紙資料4「博士（獣医学）のニーズ調査（企業等対象）」】

### (3) アンケート調査以外の入学者の見込み

岩手大学においては、農学部附属動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）において、臨床獣医師及び公衆衛生に携わる獣医師を中心に、過去10年間わたる卒後教育（部門研修会、全体研修会及びFarm To Tableフォーラム）を通じて東北地域における恒久的な高度獣医学教育施設の設置と臨床獣医師及び公衆衛生獣医師のリーダー育成を熱望する声が従来からあり、これら獣医師の入学者が期待される。

同様に、東京農工大学においても獣医師再教育セミナー「獣医師の卒後再教育プログラム」を9年間にわたって継続して開催しており、文部科学省からの本プログラムへの評価も高く、参加している獣医師からは、博士（獣医学）学位の取得を希望する声が多い。

一方、厚生労働省や農林水産省の中央官庁においても、国際的な交渉力強化のため博士取得の必要性が高まっている状況があり、公務員をはじめとした社会人の入学者も期待される。

さらに、東京農工大学及び岩手大学とも連携大学院を置くことを計画しており、連携機関である国立感染症研究所（東京農工大学）及び農業・食品産業技術総合研究機構（岩手大学）での研究指導を希望する者が見込まれる。

なお、本共同獣医学専攻においては、ライフサイエンスを中心とした動物基礎医学講座を設けており、東京農工大学及び岩手大学において畜産学や生命科学などの分野を専攻する他の研究科等の学生や、当該分野を目指す私立大学からの学生が、新たに本専攻を希望することが期待される。

## ウ) 学生納付金設定の考え方

学生納付金については、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年3月31日 文部科学省令第16号）に基づき、同省令に掲げる授業料、入学料及び検定料の額を標準とし、各構成大学において設定する。

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

### (1) 学生の確保

学生確保に向けた具体的な取組としては、特色的で質の高い教育を提供していること及び、従来の岐阜連獣に比し、時間的・地理的な制約を最大限排除していることが挙げられる。また、それらのメリットを適切に周知している。具体的には、以下のとおりである。

1. 共同獣医学専攻は、獣医学分野において質・量ともに十分な実績がある東京農工大学、岩手大学が持つリソースを相乗的に組み合わせた教育課程を提供できることに特色がある。

そのため、学生募集に際しての展開として、本共同獣医学専攻の特色を踏まえた、東京農工大学、岩手大学の対象学生に加え、広く東日本地区で周知活動を行うこととする。

具体的には、獣医師大会、日本家畜臨床学会や家畜衛生協議会などの獣医学に関連する学会や研究会等の機会を活かし、可能な範囲で周知する。また、岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）において、臨床獣医師及び家畜衛生・公衆衛生に携わる獣医師を中心とした卒後教育の場において本構想について周知したところであるが、今後も継続的に情報を発信することとしている。

2. 獣医療系の職場や保健行政等の職場などで経験を積む社会人についても、いわゆる14条特例を適用し積極的に受け入れること及び必要に応じて夏季に集中講義や実習を行うこと等を適切に周知することとする。

さらに、教育手法として地理的に遠隔地にある両大学による教育を効果的に行うため、遠隔講義システムを活用する。



## II 人材需要の動向等社会の要請

### ①人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）

東京農工大学及び岩手大学は、それぞれ伴侶動物及び産業動物の高度医療に強みを持ち、獣医衛生科学の分野では、それぞれ国際重要感染症対策及び食の安全を専門とする研究領域を有する。大学院博士課程においてもこれらの両大学の強みを活かすことで、国内外の獣医学領域における動物衛生・公衆衛生及び臨床科学の諸問題を最先端の科学的手法（適切な手法）を用いて網羅的に分析・評価し、動物を分子レベルから個体レベル、さらに、群レベルの視点（獣医学の切り口）で解決することができる能力を備えた人材に育て上げ、国際通用性のある大学院として社会を先導する博士を養成する。

### ②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### ア) 人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

##### (1) 人材需要の動向と社会の要請（まとめ）

これまでの岐阜連獣における実績として、過去5年間の平均修了者数は、東京農工大学 7.4人、岩手大学 4.0人、合計 11.4人であり、民間企業や研究所等に就職していることから、今後も同規模の需要はあるものと見込まれる。

さらに、企業等における新たな分野や既存分野の強化に向けて、本共同獣医学専攻修了者の新規採用者数を調査した結果、2大学で 12.0人であった。

加えて、留学生が母国で活躍することを国際的な人材需要と考えると、入学予定者数が即ち海外での人材需要となり、特に、岐阜連獣への送り出し実績の無い姉妹校からの新たな入学予定者数である 毎年 3.3人が国際的な需要と見込まれる。

なお、本共同獣医学専攻において、社会人学生以外の学生数は、東京農工大学6人（日本人学生2人、留学生4人）、岩手大学3人（日本人学生2人、留学生1人）の計9人を想定しており（P1「入学定員の設定の考え方」参照）、修了後の就職先等の需要は充分確保されている。

表 12：実績及びアンケート調査等を踏まえた人材需要の見込み（まとめ）（単位：人）

区 分	東京農工大学	岩手大学	2大学計
岐阜連獣修了者の実績(表 13)	7.4	4.0	11.4
新規に見込まれる企業等の採用者数(表 15)	+ $\alpha$	+ $\alpha$	12.0
留学生の動向に基づく新規人材需要(表 16)	3.3	—	3.3
合 計	10.7+ $\alpha$	4.0+ $\alpha$	26.7

※1 岐阜連獣の実績との重複については控除している。

※2 新規に見込まれる企業等の採用者数 12.0人は、両大学に対する希望数であるため、各大学は「+  $\alpha$ 」とした。

以上のことから、岐阜連獣の実績及び新規需要見込みを合計すると、両大学で 26.7人となり、本共同獣医学専攻において、国内外において喫緊の課題を解決できる獣医学分野の博士人材を養成するためには、少なくとも、両大学で合計 15人の入学定員が必要である。

なお、国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal（研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト）からの提供データ（平成 23～27 年度）では、農学・動物生命科学分野における大学教員（助教相当）／研究員／ポスドクの求人状況において、平成 23 年度と 27 年度を比較すると、増加基調にある。

さらに、動物生命科学以外の分野（実験動物学、基礎医学、基礎生物学 等）を含め、獣医学分野の博士人材全体では、今後更なる需要があるものと考えられる。

## (2) 人材の養成に関する社会的な要請

### i) 獣医師を取り巻く社会的状況

農林水産省が取りまとめた「獣医師の需給に関する検討会報告書(平成19年5月)」によれば、新卒の獣医師が産業動物分野及び公務員獣医師を選択する割合は相対的に低く、各地域において産業動物獣医師及び公務員獣医師の減少が予測されている。

また、獣医師法第22条に基づく届出概況(平成26年12月31日現在)によれば、新卒の獣医師の過半数が小動物分野を選択していること等、小動物領域における獣医師の活動分野が増している。

そのような状況の中で、東京農工大学及び岩手大学においては、産業動物分野及び公務員獣医師を目指す獣医師の育成のため、各大学及びNOSAIや地方行政施設等との連携による臨床実習や家畜衛生・公衆衛生実習の充実・強化に取り組んできた。

しかし、現場における産業動物獣医師、家畜衛生・公衆衛生獣医師及び小動物獣医師の育成には、高度な知識と経験を有したリーダーとなりうる獣医師(博士人材)が必要とされている。

一方、文部科学省が招集した「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議(平成26年6月)」では、獣医学系の大学院について、成長著しいライフサイエンス研究への貢献の期待が述べられるなど、今後、ライフサイエンスの分野においても高度な専門性を持った獣医師の需要が益々高まると考えられる。

さらに、「わが国の獣医学教育の現状と国際的通用性」日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会(平成29年3月)においても、近年の著しい社会情勢の変化に伴い「安全な畜水産物の国内生産、国際的な畜水産物の安全性確保」、「トランスレーショナル研究などライフサイエンス分野への貢献」など、獣医学に対する多様な社会的ニーズを再認識すべきである旨提言されている。

### ii) 国・民間企業等における要請

また、全国の獣医系大学の地域配置を踏まえ、東京農工大学は、関東地区を中心として、岩手大学は、東北地区を中心として、獣医学分野の人材の採用を行っている民間企業等に、アンケート調査を行った結果、獣医学分野に関する人材を採用している企業等の現場においては、博士(獣医学)の資格を持つ者の専門知識や技術が強く求められており、その中でも特に、獣医衛生学分野及び新たな職域・職種の広がりとして創薬におけるトランスレーショナルリサーチの広がりやグローバルな医薬品開発における規制当局(FDA、EMEAなど)との科学的なディスカッション等に対応し得る獣医学に係る高度な専門知識と研究能力を備えた人材が求められており、企業等において博士(獣医学)の活躍が期待される新たな職種や業務内容が生じている状況が明らかとなった。

一方、近年の食の安全性確保の高まりから、農林水産省が「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準(農場HACCP認証基準: Hazard Analysis Critical Control Point)」を2011年から開始するなど、畜産農場や関連業者、公務員等に、現場を正しくリードできる人材養成が重要となってきている。また、持続可能農業実現のための「農業生産工程管理(Good Agricultural Practice: GAP)」手法が畜産分野にも適用されており、特に、2020年東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準に、「Japan Good Agricultural Practice(JGAP: ジェイギャップ) = 農場用管理点と適合基準」の家畜・畜産版が官邸主導で導入されている。

さらに、文部科学省の「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略(報告書)」(平成25年12月18日 戦略的な留学生交流の推進に関する検討会)においては、我が国の更なる発展を目的とした戦略による「攻め」の留学生受入れに取り組むことが必要であると示されており、外国人留学生受入れ施策の成果が十分に期待できる重点分野の一つである農学において食料安全保障について言及されている。特に、悪性海外伝染病(高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫)の水際での防疫より、発生の源であるアジア地域での撲滅(川上対策)が、より効果

的であることから、「海外獣医衛生学分野のリーダー人材」の育成として、国費を用いて留学生を教育することは、我が国に対して大きく貢献するものである。

また、日本獣医師会では「獣医学術部会の学術・教育・研究委員会」を設置し、高度人材の育成に係る事業においては、特に、生涯研修事業は、国内の獣医師を対象とし岩手大学をはじめ全国の大学が協力して実施している。さらに、今年度から国際交流推進のための「アジア地域獣医師等研修事業」を開始し、12獣医系大学がアジア地域から獣医師を受け入れる。東京農工大学及び岩手大学においても、各1名を受け入れ、川上対策として、アジアでの高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫をどう防御するかという観点から、家畜衛生、公衆衛生、産業動物臨床分野等の高度な教育を行い、社会的ニーズに応える計画がある。獣医学分野における人材育成の重要性は国際レベルで高まっており、大学院レベルへの展開も期待される。

(参考)

企業等からのアンケート回答（自由記述）参照 [P14~16]

(3-1) 岐阜連獣における修了者の実績

平成23年度から27年度における岐阜連獣の両大学の修了者実績としての平均修了者数は、東京農工大学7.4人、岩手大学4.0人であった。ただし、修了者数は年度によりばらつきがあり、これは指導教員の異動・変更、経済的事情、女子学生の増加による出産・育児等で休学する学生が増えたことより4年間で修了できないケースが増えたことによる。

なお、修了者の実績については、近年の動向・傾向を踏まえるため、入学者数の実績に対応して平成23年度から28年度（6年間）までを対象とした。ただし、平成28年度は、修了見込み（29.2末現在）であるため、合計及び平均には算入していない。

表13：岐阜連獣における修了者の実績

(単位：人)

区 分	岐阜連獣全体	東京農工大学	岩手大学	2大学計
平成23年度	18	10	2	12
平成24年度	30	8	9	17
平成25年度	31	9	1	10
平成26年度	18	3	5	8
平成27年度	20	7	3	10
平成28年度	(26)	(8)	(4)	(12)
合計	117	37	20	57
平均	23.4	7.4	4.0	11.4

- ※1 上記は、東京農工大学及び岩手大学配置の学生数である。
- 2 経済的事情又は出産・育児による事情により、やむを得ず退学する者が、毎年1人から2人程度はいるが、ほとんどの入学者は修了し、指導教員の支援の下に就職をしている。  
 なお、平成25年度の岩手大学は、同年修了予定の6人が平成24年度に短縮修了している。さらに、平成26年度の東京農工大学においては、指導教員の変更及び他の学府（研究科）への異動により、所属していた2人の学生が変更先の連携機関の教員の下に所属に、1人の学生が異動先の教員の所属に配置換になっている。この3人を合わせると平成26年度は6人の修了者となり、5年間の合計は40人、平均で8.0人の修了者数となる。
- 3 平成28年度は、修了見込みであるため、合計及び平均には算入していない。

(3-2) 岐阜連獣における修了者の主な就職先（職域別）

平成23年度から27年度における岐阜連獣の就職先を職域に分類して解析を行った。東京農工大学では、教員（獣医学及び医学部）・公共機関研究者として活躍する人材が多く、次いで企業での製薬・創薬、臨床（大動物及び小動物）の順である。年平均では、教員・公共機関研究者として3.2人、製薬・創薬に2.4人、臨床獣医師として1人が就職している。岩手大学の全入学者

を対象とした就職先分類では、教員（獣医学及び医学部）・公共機関研究者として活躍する人材が多く、次いで臨床（大動物及び小動物）である。年平均では、教員・公共機関研究者として2.6人、臨床獣医師として1人が就職している。

**表 14: 岐阜連獣における修了者の就職先実績** (単位:人)

職 域	家畜衛生・公衆衛生		臨床		製薬・創薬		教員・公共機関研究者		その他	
	農工大	岩手大	農工大	岩手大	農工大	岩手大	農工大	岩手大	農工大	岩手大
就職先実績 (過去5年間)	1	1	5	5	12	0	16	13	3	1
年 平 均	0.2	0.2	1.0	1.0	2.4	0	3.2	2.6	0.6	0.2

※1 過去5年間の実績数を集計年数5年で除した数値である。

2 本表は、就職先実績を職域別に分類したものである。進路別分類については、表 19 を参照。

#### (4-1) 企業等へのアンケート調査の結果

獣医学分野に関する人材を採用している企業等に、組織において新たな分野や既存分野の強化に向けて、東京農工大学及び岩手大学に設置される共同獣医学専攻の修了者を何年間で何人程度採用する見込みがあるか調査をしたところ、次の表のとおり回答があり、岐阜連獣に学部から進学し、企業等に就職をした者の実績を差し引くと、2 大学で 12.0 人の採用者が見込まれる。

**表 15 : 企業等における採用者数（新規分野及び既存分野の強化）**

区 分	採用人数		2 大学計 (人)
	1 人	2 人	
採用頻度	1 人	2 人	
1 年当たり	2 機関	1 機関	4.00
2 年当たり	3 機関		1.50
3 年当たり	11 機関		3.67
4 年当たり	3 機関		0.75
5 年当たり	13 機関	1 機関	3.00
10 年当たり	1 機関		0.10
合 計 (A)	33 機関	2 機関	13.02
岐阜連獣の実績（5年間平均）(B)			1.0
<b>1 年当たりの採用者数 (A)-(B)</b>			<b>12.0</b>

※ (B)の実績は東京農工大学のみである。

【参考：別紙資料4「博士（獣医学）のニーズ調査（企業等対象）」】

#### (4-2) 留学生の需要の見込み（東京農工大学）

本共同獣医学専攻における国際的な需要の主要要素として入学した留学生が母国で活躍するものとし、入学者数が即ち海外での需要になると考え、特に、岐阜連獣への送り出し実績の無い姉妹校からの新たな入学志願者数について調査をした。その結果、1年当たり、新たに留学生 3.3 人が国際社会で活躍するものと見込まれる。

**表 16 : 新規留学生送り出し見込数（再掲）**

区 分	送り出し実績の無い姉妹校			計 (人)
	1 人	2 人	3 人	
送り出し頻度	1 人	2 人	3 人	
1 年当たり	1 校			1.0
2 年当たり			1 校	1.5
5 年当たり		2 校		0.8
<b>1 年当たりの送り出し数</b>			<b>3.3</b>	

※ 上記回答のあった姉妹校：カセサート大学 [タイ]、キングモンクット工科大学ラカバン校 [タイ] マヒドン大 [タイ] ガジャマダ大学 [インドネシア]。

### （5）新たな博士人材需要の拡大

企業等においては、博士（獣医学）の活躍が期待され、新たな職種や業務内容が生じ、その需要が拡大している。

表 17：新たな博士人材需要の拡大（職域別）

職域	家畜衛生・ 公衆衛生	臨床	製薬・創薬	教員・公共機関 研究者
背景	・ BSE、口蹄疫、高病原性鳥インフルなど感染症の増加と対応強化ニーズの高まり	・ 飼い主の高度獣医療ニーズの高まり	・ 製薬市場のグローバル化	・ 獣医系大学での人材教育の充実と多様化
要因	・ 越境感染症の対策強化ニーズの高まり ・ 国民の食の安全確保ニーズの高まり (HACCP、J-GAP など) ・ 環境衛生保全対策 (放射線・農薬等)	・ (伴侶動物) 専門医制度の進展 ・ 国民の食糧自給確保ニーズの高まり (HACCP、J-GAP など) ・ 畜産物市場のグローバル化・輸出ニーズの高まり	・ 製薬企業の多国籍化 ・ 研究者の国際間流動化 ・ 研究者として採用する人材が学士から博士志向に変化	・ 医療系大学での獣医師教員の採用拡大 (基礎系、実験動物系)
新たな 職種や 業務内 容	・ (家畜衛生) 病性鑑定業務 ・ (家畜衛生) 伝染病防疫業務 ・ (公衆衛生) 食品安全監視業務 ・ (公衆衛生) 環境衛生監視業務	・ (伴侶動物) 専門医の需要拡大 ・ (産業動物) 団体の獣医技術研修業務 ・ (産業動物) 臨床検査業務	・ トランスレーショナルリサーチ ・ 医薬開発部門 (医師対応) ・ プロジェクトマネージャー (海外対応) ・ グローバルな医薬品開発過程における当該国の規制当局や関連企業との協議に係る業務	・ 医学系学部教員 (基礎系：解剖学・生理学・微生物学等) ・ 実験動物施設教員

### （6）JREC-IN Portal のデータによるエビデンス

国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal（研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト）からの提供データ（平成 23～27 年度）に基づき、農学・動物生命科学分野における大学教員（助教相当）／研究員／ポスドクの求人状況を解析した。下表に示すように、獣医系大学院修了者が応募の対象となる研究者求人数は、平成 23 年度と平成 27 年度を比較すると、増加基調にあり、特に国立大学及び民間企業における求人数の増加が顕著であった。

表 18：研究機関別の大学助教相当／研究員／ポスドクの求人状況（単位：人）

年 度	国立大学	私立大学	公立大学	民間企業	計
平成 23 年度	33	9	2	1	45
平成 27 年度	39	10	0	5	54
変動数	6	1	-2	4	9

Ⅲ 資料編

表 19 : 岐阜連獣修了者進路別内訳

(単位：人)

区 分		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	合 計
大 学	農工大	3	3				6
	岩手大	1	4		1	1	7
公務員 (研究所等)	農工大	1		1		4	6
	岩手大		2			1	3
民 間	農工大	3(1)	3(1)	4(1)	2(0)	2(2)	14(5)
	岩手大		2(0)	1(0)	1(0)		4(0)
団体等	農工大		1	1			2
	岩手大		1				1
海 外	農工大	2	1	1	1	1	6
	岩手大				3	1	4
未 定	農工大	1		1			2
	岩手大						
その他	農工大			1			1
	岩手大					1	1
計	農工大	10	8	9	3	7	37
	岩手大	2	9	1	5	3	20
2 大学計		12	17	10	8	10	57

※ 民間の( )は学部から進学し、修了後、民間企業に就職した者で内数である。

表 20 : 岐阜連獣修了者の具体的な進路先

区分	ア 研究者	イ 大学教員	ウ 獣医師	その他
東 京 農 工 大 学	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)ノベルテック上流研究員</li> <li>・(株)ボゾリサーチセンター御殿場研究所</li> <li>・ソウル大学 ポスドク</li> <li>・国立循環器病研究センター</li> <li>・富士フイルム株式会社医薬品・ヘルスケア研究所</li> <li>・東京農工大学研究員</li> </ul> <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜大学 特別協力研究員(2人)</li> <li>・日本たばこ産業(株)</li> <li>・日本化薬(株)</li> <li>・カンザス大学医学部ポスドク</li> </ul> <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)ホゾリサーチセンター</li> <li>・国立成育医療研究センター</li> <li>・第一三共 RD ノバーレ株式会社</li> <li>・武田薬品工業</li> </ul> <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)ホゾリサーチセンター</li> <li>・国立研究開発法人水産総合研究センター</li> <li>・生化学工業株式会社</li> <li>・東京都健康安全研究センター</li> <li>・日産化学工業株式会社</li> </ul> <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興和株式会社</li> <li>・国立循環器病研究センター</li> </ul>	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マハナコーン工科大学 獣医学部</li> <li>・岡山大学</li> </ul> <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本獣医生命科学大学</li> </ul> <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カブール大学</li> </ul> <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンハー大学</li> </ul> <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・King Mongkut 's Institute of Technology Ladkrabang</li> </ul> <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カブール大学</li> </ul>	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京農工大学農学部附属動物医療センター</li> </ul> <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肝属農業共済組合 診療係</li> </ul> <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県農業共済組合</li> <li>・本庄犬猫病院</li> </ul> <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新組織科学研究所</li> <li>・ドルフィンアニマルホスピタル</li> </ul> <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道庁(日高家畜保健衛生所)</li> </ul> <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道ひがし農業共済組合</li> </ul>	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他 1 人</li> </ul> <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メリアルジャパン株式会社</li> </ul> <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他 2 人</li> </ul>

岩手大学	<p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜大学特別研究員</li> <li>・弘前大学大学院医学研究科</li> </ul> <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島大学大学院医歯薬保健学研究科</li> </ul> <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都健康安全研究センター</li> </ul>	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手大学農学部</li> </ul> <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手大学農学部</li> <li>・福島県立医科大学</li> <li>・帯広畜産大学</li> </ul> <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カブール大学</li> <li>・サウスバレー大学 (2人)</li> </ul> <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手医科大学</li> <li>・カブール大学</li> </ul> <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サウスバレー大学</li> </ul>	<p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みはま獣医科医院</li> <li>・NOSAI 盛岡</li> <li>・北海道庁</li> </ul> <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわて総合動物病院</li> </ul> <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞鶴動物医療センター</li> </ul>	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主婦</li> </ul> <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉商事</li> </ul>
------	---	---	---	---

表 21：企業等からのアンケート回答（自由記述）（共：共通、東：東京農工大学、岩：岩手大学）

項目別	主 な 自 由 記 述
職域・職種	<p>共：Translational Research のリーダー又は担当者</p> <p>共：管理獣医師は動物愛護の観点から前臨床研究をサポートする重要な役割である。</p> <p>共：Translational Research、つまり臨床外挿性の観点から前臨床と臨床をつなぐ役割。これは、動物の生理学を熟知し、前臨床研究の有用性と限界とを理解することが必要で、獣医師は一つの重要な専門性だと考えている。</p> <p>共：医薬品開発の研究では、年々サイエンスのレベルが上がっているため、特に遺伝子操作関連や薬効薬理実験に関わる所では、獣医であっても博士が必要となってきた。</p> <p>共：最新の論文を読んで、創薬のターゲットになるかどうかの勘を働かせたり、そのターゲットに対する薬効を簡易的に評価できる in vitro/in vivo 系を立ち上げるなど</p> <p>共：創薬ターゲットの遺伝子をノックアウトなどして、表現型を評価するなど。</p> <p>共：同社では営業職にも獣医師が多く含まれている。業務の性格上、営業職の職員にもチャンスがあれば積極的に学位の取得を求める。</p> <p>共：高度な専門性を必要とする場合、即戦力となる人材を随時採用したい。</p> <p>共：修士や学卒では直ぐに対応できない高度な専門性を必要とする難度の高い研究開発や研究開発の管理</p> <p>共：近年の世界的な動物愛護の意識の高まりに応じて、動物実験委員会の主導、研究所における適切な動物の取扱いの指導、疾病動物のケアなどがある。獣医師でも賄える業務ではあるが、科学的な見地に精通している獣医学博士が担うことが多くなっている。</p> <p>共：国際業界団体の幹部職、具体的な職種名：国際食品香料工業会の Science Board</p> <p>共：CODEX 委員会の Technical Adviser として政府の国連活動を支援する業務</p> <p>共：各国の Regulation に精通した次世代の専門家を育成する業務</p> <p>共：グローバルな医薬品開発における、規制当局（FDA、EMEA など）との科学的なディスカッション</p>

項目別	主 な 自 由 記 述
(職域・職種)	<p>共：グローバルな医薬品開発における関連企業、CRO との科学的なディスカッション</p> <p>共：知財（特許）における、科学的なエビデンスに基づく国際対応を含む意見・コメントの提供</p> <p>共：国内外のアカデミアとの共同研究のコーディネート、エビデンスの議論</p> <p>共：動物病態モデルのヒト臨床病態への外挿性をより精密に評価するための Translational Research</p>
学位取得	<p>東：医師の Ph.D 保有率は多分 8 割くらいだと思いますが、獣医師は少な過ぎます。これからの若い獣医師の先生方には広く門を開いていただきたい。</p> <p>岩：本組合では職員の博士号取得のための就学等に協力体制を取っています。</p> <p>岩：大学在学中から博士号の取得は目標の一つではあり、働きながら研究できる環境が整うことは非常に嬉しく、入学したい。そして学ぶなら母校がよいと思っています。</p> <p>岩：地方自治体においても学術的な知識や研究能力は業務を遂行していく上で非常に重要であると考えます。在職者の学位取得についても、これまで積極的に推進しているが、近隣地域において取得可能になることは非常にありがたい。</p>
社会人教育	<p>東：仕事をしながら、高いレベルの教育を受けられるのはすばらしいことだと思います。</p> <p>東：日々獣医学も進歩しています。臨床においても、充実した対応をしたいので勉強できる場を作っていただきたい。</p> <p>東：社会人として 4 年制博士課程を受講できるならば、是非参加したい。</p> <p>岩：卒後教育として重要であり、常に研究心が必要。設置されることを希望します。</p> <p>岩：社会人大学院教育（博士課程）を多いに歓迎します。多くの獣医師が望んでいたことと思います。</p> <p>岩：開業獣医師（小動物）ですが、是非とも勤務医を参加させたい。</p> <p>岩：臨床獣医師の仕事しながら教育を受けられるようなカリキュラムがあれば、是非、学んでいきたいと思っております。</p> <p>岩：社会と大学が近くにあってほしい。社会人が「学びたい」「研究したい」といった時に、より楽に入学できるシステムがほしい。</p> <p>岩：地方大学での診療水準が更に上がり、一般開業医が積極的に利用できるような体制が整うための一つの手段として、働きながらでも入学できる課程は非常に有意義だと考えます。</p>
地位向上	<p>東：新しい治療法の治験など人医の世界も牽引できるような社会的役割を果たせるようになれば一層良いと思います。</p> <p>東：獣医学の向上・社会的地位も向上していますが、経済的・時間的問題等課題もあり、総合的な獣医学も必要と考えます。</p> <p>東：現在の獣医療において足りない点は多くあり、そのためには研究を行う必要があります。専門家が重要となってきた時代である。</p> <p>東：獣医師の社会的地位向上のために絶対必要である。</p> <p>岩：獣医師の社会的地位の向上のため、優秀な人材の養成は必要</p>



項目別	主 な 自 由 記 述
社会貢献・地域貢献	<p>東：社会の様々な場で博士人材の輩出と同時に、有望な博士の職域の拡大にも期待します。</p> <p>東：これから直面する少子高齢化社会と犬猫・小動物との社会的共生の在り方を考えることも重要になってくると思われます。飼い主への精神的ケアも含めた獣医療が必要になると思います。</p> <p>東：長期的な視点から基礎獣医学の充実・発展があつてこそ、臨床も含めた獣医学の発展につながると思います。</p> <p>東：地域の畜産振興に関わる研究や指導について更に進めていただきたい。</p> <p>岩：東北地域に根ざした岩手大学として、東北各県が抱える課題を把握し、研究題材として取り上げて頂きたい。</p> <p>岩：診療現場において、高度な医療技術の導入は必要と考えます。色々なニーズに対応できるような広い知識をもつ産業獣医師に期待します。</p> <p>岩：東北地方独特の獣医・畜産事情を研究する分野があれば嬉しく思います。</p>
採用	<p>東：獣医師は採用困難職種のため、希望する学生は大歓迎です。</p> <p>東：産業動物獣医師の確保が急務とされており、その可能性に向けた育成も必要と考えます。</p>
その他	<p>東：日々臨床に接していて、まだまだ動物生理学や基礎的な部分も未知な部分が沢山あると感じています。臨床獣医師はそれを経験的な部分で補っている現状だと思えます。</p> <p>東：動物行動学・シェルターメディスン・動物福祉学を学べる場が欲しい。</p> <p>東：特に鳥類等の診察を行うことができる人材の育成を要望いたします。</p> <p>岩：人間の生活（食の確保と安全、コンパニオンアニマルを通じた豊かな生活、公衆衛生を通じた病気のコントロール等）に直結していることを新しい大学院教育において、学生にも社会にも広く浸透することを願います。</p>

## 資 料 目 次

資料 1	獣医学分野の大学院（専攻）設置に関するアンケート（学生対象）・・・・・・・・	1
資料 2	獣医学分野の大学院（専攻）設置に関するアンケート（姉妹校対象）・・・・・・・・	3
資料 3	獣医学分野の大学院（専攻）設置に関するアンケート（社会人の方対象）・・	5
資料 4	博士（獣医学）のニーズ調査（企業等対象）・・・・・・・・・・・・・・・・	7

獣医学分野の大学院（専攻）設置に関するアンケート  
【学生対象】

東京農工大学と岩手大学は、両大学で掲げた共同獣医学科（平成 24 年度設置）の教育理念「人類と動物の健康と福祉に貢献する」を更に深化させ、大学院段階で新たな共同カリキュラムを踏まえ、獣医学分野における研究者及び高度専門職業人を養成するために、平成 30 年度に「共同獣医学専攻（4 年制博士課程）」を両大学それぞれに設置すべく、精力的に準備を進めております。

共同獣医学専攻では、社会人に対しても門を大きく広げ、仕事をしながら就学できる運用を考えております。また、基礎、衛生及び臨床に重点を置いたカリキュラムを構想しており、東日本を中心に社会の様々な場で活躍する博士人材の輩出を目指します。

現在、岐阜大学連合獣医学研究科の構成大学である東京農工大学と岩手大学の 2 大学が、共同してカリキュラムを構成・運営するもので、在学生にとっては、在籍している大学の大学院に進学することが可能になります。≪学生は、東京農工大学又は岩手大学のいずれかの大学が本籍校となります。≫

そこで、今回「東京農工大学・岩手大学大学院 共同獣医学専攻（4 年制博士課程）」設置に関するアンケートを行うことといたしました。

なお、このアンケート結果は統計資料としてのみ用いて、目的以外に利用することはありません。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

記

1. あなたの学年等について丸を付けてください。

学年： 1、 2、 3、 4、 5、 6

性別： 男、女

2. 将来の進路についてどのように考えているか、当てはまるものの番号に丸を付けてください。

1) 小動物 臨床獣医師

2) 大動物 臨床獣医師

3) 公務員

4) 研究職

5) 大学教員

6) その他 ( )

7) まだ決めていない

(裏面あり)

3-1. 大学院への進学についてどのように考えているか、当てはまる番号のいずれかに丸を付けてください。

- 1) 大学院へ進学したい
- 2) 将来的に大学院への進学したい
- 3) 大学院へ進学したいが、次の理由により困難である
  - (1) 経済的な理由のため
  - (2) 就職を優先したいため
  - (3) その他 ( )
- 4) 就職した後に大学院への進学を検討したい
- 5) 大学院への進学を希望しない

3-2. 3-1. の1)～4)のいずれかに回答された方にとっては、希望(検討)されている本籍校に、丸印を記入してください。

東京農工大学	岩手大学	未定

4. 大学院教育(博士課程)において、特にどの分野の充実を必要と考えますか。当てはまるものに丸印を付けてください(複数可)。

- 1) 動物基礎医学 [基礎獣医学、病態獣医学]
- 2) 獣医衛生学 [応用獣医学]
- 3) 獣医臨床医科学 [臨床獣医学]
- 4) その他 ( )

5. その他、ご意見等があればご自由にお書きください。

ご協力頂き有難うございました。

できるだけ取りまとめて、10/7(金)までに本館1階学生支援室前レポートボックスへ投函下さい。

-----  
東京農工大学では平成30年4月に大学院共同獣医学専攻（4年制博士課程）  
の設置を予定しています。

本専攻では獣医基礎分野、動物衛生・公衆衛生分野及び高度動物臨床分野の高度  
な研究人材を養成することを目的としております。

概要は以下の通りです。

入試時期：8月及び1月

入試実施場所：東京農工大学及び岩手大学

授業料：年額535,800円、入学料：282,000円

奨励奨学金制度あり

入学定員：10名（見込み）

その際、留学生の新たなニーズとして本学の姉妹校で獣医学部をお持ちの  
貴大学からの志願者が、どの程度あるかの調査をしたく考えております。

そこで、お忙しいところ大変恐縮ですが、以下の質問に回答いただけ  
ませんでしょうか。

質問：貴大学において、農工大の共同獣医学専攻に博士課程学生として、  
何人／1年、又は、何人／何年くらい送り出す見込みがありますか？



獣医学分野の大学院（専攻）設置に関するアンケート  
【社会人の方対象】

東京農工大学と岩手大学は、両大学で掲げた共同獣医学科（平成 24 年度設置）の教育理念「人類と動物の健康と福祉に貢献する」を更に深化させ、大学院段階で新たな共同カリキュラムによる獣医学分野における研究者及び高度専門職業人を養成するために、平成 30 年度に「共同獣医学専攻（4 年制博士課程）」を両大学それぞれに設置すべく、精力的に準備を進めております。

共同獣医学専攻では、社会人に対しても門を大きく広げ、仕事をしながら就学できる運用を考えております。また、基礎、衛生及び臨床に重点を置いたカリキュラムを構想しており、東日本を中心に社会の様々な場で活躍する博士人材の輩出を目指します。

現在、岐阜大学連合獣医学研究科の構成大学である東京農工大学と岩手大学の 2 大学が、共同してカリキュラムを構成・運営するものです。《学生は、東京農工大学又は岩手大学のいずれかの大学が本籍校となります。》

そこで、今回「東京農工大学・岩手大学大学院 共同獣医学専攻（4 年制博士課程）」設置に関するアンケートを行うことといたしました。

つきましては、ご多用中、恐れ入りますが、下記アンケートにつきまして、ご協力のほど、お願いいたします。

なお、このアンケート結果は統計資料としてのみ用いて、目的以外に利用することはありません。どうぞよろしくお願いいたします。

記

1. あなたのプロフィールについて選択してください。
  - 職種： 公務員、 団体職員、 開業獣医師、 その他
  - 年齢： 20 代、 30 代、 40 代、 50 代、 60 代以上
  - 居住地（    都・道・府・県 ）
  - 性別： 男、女
  
2. 博士（獣医学）についてどのようにお考えか、当てはまるものに丸を付けてください。
  - 1) 博士号を持っている
  - 2) チャンスがあれば将来的に博士号を取得したい
  - 3) 博士号は特に必要としない
  - 4) わからない
  
3. 仕事をしながらでも大学院で就学できる開かれた大学院の必要性について、当てはまるものに丸を付けてください。
  - 1) 絶対に必要だと思う
  - 2) 必要だと思う
  - 3) どちらかという必要だと思う
  - 4) 必要とは思わない
  - 5) わからない

(裏面あり)





質問 1 : 貴組織で、新たな分野や既存分野の強化に向けて、従業者に  
東京農工大学・岩手大学 大学院共同獣医学専攻（博士課程）  
への入学を勧めますか？

- 1) 積極的に勧める
- 2) 勧める
- 3) 勧める可能性はある
- 4) 勧めない
- 5) わからない

(            )

質問 2 : 1) から 3) と答えた方にお伺いします。  
その場合、年（又は複数年）当たり何人くらいの入学が見込まれま  
すか？

(            人 /            年)

質問 3 : 貴組織において、新たな分野や既存分野の強化に向けて、  
東京農工大学・岩手大学 大学院共同獣医学専攻（博士課程）の  
修了者を新たに採用する可能性はありますか？

- 1) 積極的に採用したい
- 2) できれば採用したい
- 3) 採用する可能性はある
- 4) 採用は考えていない
- 5) わからない

(            )

質問 4 : 1) ～ 3) と答えた方にお伺いします。  
その場合、概ね何年間で何人くらいの採用が見込まれますか？

(            人 /            年)